

テーマ 図書館

しよめい	ちょしゃ	しゅっぱんしゃ	せいきゅうきごう	ないよう
よるのとしょかん	カズノ・コハラ／作 石津 ちひろ／訳	光村教育図書	エホン/コ	夜の間だけ開いている図書館で働いているのは、カーリーナという女の子と3羽のふくろうたち。図書館にはたくさんの動物たちがやってきます。そんな動物たちにぴったりの本をカーリーナたちは見つけてあげるのです。ところがある日、しずかな図書館でいろんなトラブルがおこります。カーリーナたちはどうやって解決するのでしょうか？
としょかんのきょうりゅう	鈴木 まもる／作・絵	徳間書店	エホン/ス	図書館がだいすきな3きょうだいは、図書館にやってきます。おとうとは、おばあちゃんせんせいにえほんをよんでもらっています。図書館のろうかに大きなきょうりゅうのえほんがありました。表紙をめくるときょうりゅうのいる世界につながっています。ぼうけんをして、きょうだいはぶじに図書館へもどれるでしょうか。
としょかんライオン	ミシェル・ヌードセン／作 ケビン・ホークス／え 福本 友美子／やく	岩崎書店	エホン/ホ	ある日、としょかんにライオンが入ってきました。ライオンは、としょかんの中で静かにすごしていました。おはなしの時間になると、他の子ども達と一緒に、おはなしを聞きました。ライオンは、としょかんが気に入ったようです。としょかんの決まりが守れるなら、ライオンでも、誰でもとしょかんを使うことができます。
コウモリとしょかんへいく	ブライアン・リーズ／作・絵 さいごう ようこ／訳	徳間書店	エホン/リ	ある晩、コウモリ達はうれしい知らせをききました。「今夜は窓があいているよ！」みんなが飛んで行ったのは、図書館です。何度も来たことのある大人は、ごちそうの本(よく見て、昆虫図鑑！)や面白い本に夢中です。初めて来た子どもがさわいで遊んでいたら、「しーっ」て、人もコウモリも同じだね。さあ、お話の時間がはじまるよ。
「走る図書館」が生まれた日 ミス・ティットコムとアメリカで最初の移動図書館車	シャーリー・グレン／作 渋谷 弘子／訳	評論社	015	富田林では、とっぴーの絵の移動図書館が、図書館から遠い所に住んでいる人たちに、本を届けています。その「走る図書館」を考えて、アメリカで最初に走らせたのは、一人の女性司書、ミス・ティットコムでした。彼女は、「すべての人が図書館の本を利用できるように」という目標を持って、人々に読書の喜びを届け続けました。
カエサルくんと本のおはなし	いけがみ しゅんいち／文 せきぐち よしみ／絵	福音館書店	020	しょうたが、誰もいない図書室で本のページをめくったら、そこからちいさなおじさんが出てきました。将軍カエサルが今の本の形になるまでの歴史を教えてくれるというのです。巻物だった本を蛇腹折りにし、見たいところがサッと見れる。本読みで先生に当てられてもみんなが困らないのは、カエサルのおかげかもしれませんね。

しょめい	ちょしゃ	しゅっぱんしゃ	せいきゅうきごう	ないよう
調べよう！わたしたちの施設 2 図書館	新宅 直人／指導	小峰書店	318	図書館のうらがわを見てみよう。図書館の歴史や、むかしはどうやって本を貸出ししていたのか書かれています。また、図書館でのお仕事は、カウンター以外にもたくさんあり読んでみるとおどろくと思います。すべての人が不自由なく利用できるようにはどうしているかも説明されています。みんなも図書館へ来てみませんか。
ゲーテンベルクのふしぎな機械	シェイムズ・ランフォード／作 千葉 茂樹／訳	あすなろ書房	749	本がどのような過程を経て仕上がっていくのか、知っていますか？植物の繊維から紙を作り、動物の毛皮から表紙になる革を作り、油とススでインクを作り、金属で活字を鋳造し、印刷機を組み立て、それからやっと紙に印刷し、製本します。ゲーテンベルクは活版印刷の技術を発見しました。1450年頃のことです。
うみのとしょかん あらしがやってきた	葦原 かも／作 森田 みちよ／絵	講談社	9-0/アシ	うみの生きものが使う、うみのとしょかんの話です。うみのとしょかんでは、ひらめが本の世話をしています。うみの中にあるとしょかんなので、あらしが来ると、本がどこかへ行ってしまうないように、本を移動させます。一緒に本を守ってくれたのは、うみの大きな魚たちです。イカやオコゼなど、うみの生きものがたくさん出てきますよ。
星空としょかんへようこそ	小手鞠 るい／作 近藤 未奈／絵	小峰書店	9-0/コテ	なずな、まりあ、まさのりは両親を亡くし施設で暮らす3姉弟。クリスマスになずなは犬のぬいぐるみ、まりあは犬の本をリクエスト。なのに、なずなに『フランダースの犬』の本がやってきた。なんでこんなに悲しい本を…。サンタさんに直接文句を言うため、ふだん働いているという図書館で、サンタさんを探すことにしました。
ひみつの地下図書館 1 クモの巣で大さわぎ？！	アビー・ロングスタッフ／作 代田 亜香子／訳 坂口 友佳子／絵	ほるぷ出版	9-0/ロン	モレット屋敷で使用人としてはたらく10歳の女の子、タリー。タリーはあちこちに隠された暗号を解き、あるとき見つけたのはひみつの地下図書館。そこにある本には、魔法の力が秘められている。そしてタリーはひみつの地下図書館の「管理人」となった。ある日お屋敷に泥棒が入り、タリーは本の助けをかりてつかまえようとする。
図書館がくれた宝物	ケイト・アルバス／作 櫛田 理絵／訳	徳間書店	933/アル	第二次世界大戦下のロンドンに、3人のきょうだいがいました。親がわりだった祖母を亡くし、3人は弁護士の提案で学童疎開をし、保護者となる「後見人」をさがすことになります。本が大好きだった3人にとって、村の図書館は心の支えでした。疎開先での厳しい生活の中、安心して任せられる後見人は見つかるのでしょうか。